

合作しようよ!①

へんな筆でかいてみよう

この作品は、^{さくひん}久慈^{くじ}（茨城県）出身の書家・^{なす}那須^{いなす}（いまの栃木県）出身の^{とちぎけん}高久^{たかく}靄^{あいがい}厓^えという画家が^が絵^えをかいて、^{ことば}美しい^{うつく}言葉をかきました。

でもなんだか、ちょっとへん…

じつは、アシの花を筆にしています!

というわけで、へんなものを「筆」にして、
絵具や墨で、絵やことばをかいてみましょう!
※この絵のあいているところや、好きな紙にかいてみましょう。

蘆華萬頃月明中
アシのはなが みわたすかぎりいちめんに

さいているよ

つきあかりのなか／アシのほのふでによってかいた

てんみん

蘆華萬頃月明中

天民 筆書



癸巳夏五月為松堂賢兄／靄厓芦筆
天保四年夏五月（てんぽうよねんなつごがつ）「しようどう」さんのために／あいがいがアシのふででかいた
（1833ねん7がつ） ※旧暦と西暦で月がずれます

何を筆にしましょうか？ 草、枝、綿棒、つまようじ、ゆび？
たたみの上でかいたから、たたみの「目」が写っています！
ガタガタのところがかくとおもしろくなるかも？

江戸時代の画家はわりと
「変なかきかた」を
ライブで見せています。

葛生の豪農で靄厓の支援者
吉澤松堂のためにかかれました。
松堂も墨で竹をえがくのが
とくいでした。

たかくあいがい が おおくほしづつ だい ろか ず
高久靄厓画・大窪詩仏題 《芦花図》 縦 162.6× 横 93.7 cm